



第80号

2010/11

人と環境にやさしい交通をめざす全国大会開催

路面電車を近代化したLRTを推進しようという団体は全国で40以上あり、また60以上の都市でLRTを推進する動きがある。地球温暖化対策や本格的高齢化社会に向けて、LRTを中心として都市の交通構造を劇的に転回させようとの動きである。

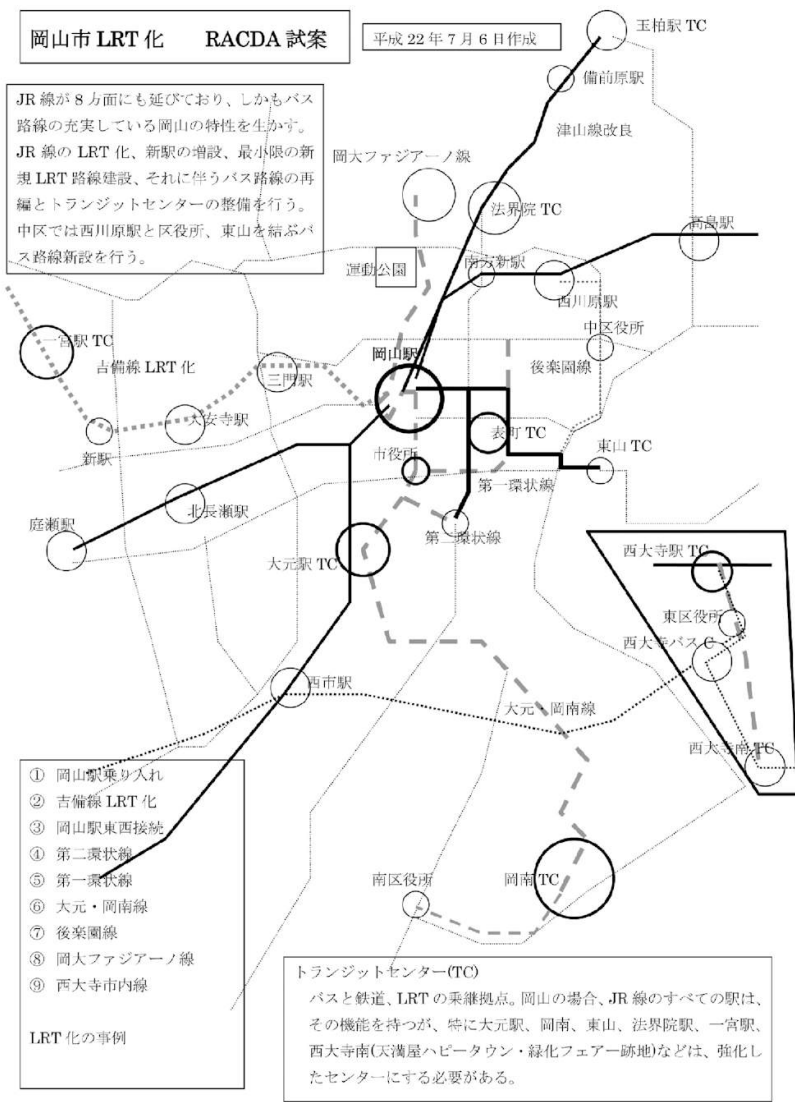
路面電車の環状化など、路面電車の活性化を本格的に最初に提案したのは岡山であった。しかしその後吉備線LRT化と同時に発表された富山では、JR富山港線が富山ライトレールとして大成功し、続いて路面電車の環状化も完成した。「コンパクトシティ」として、交通網の変革によって、高齢者でも住みやすい高効率なまちづくりを目指している。

しかし富山のあと、6年もたつが宇都宮や堺のLRT化計画は頓挫した。その中で岡山の吉備線LRT化と都心環状化構想の具体化が、全国の関係者から注目されており、いま検討されている「交通基本法」とその財源が確保されれば、実現可能なところまで来ている。

今回の大会では全国からの論文は50以上集まり、フランス人の提案する岡山の路面電車計画や、自転車と連動した吉備線改革なども発表される。

全国から500人もものまちづくりや交

通関係の専門家たちが集まり、岡山の未来を論じる。午後からの市民フォーラムでは具体的なLRT案について議論する。ぜひみなさんご参加ください。





2010年10月30日～31日に東京・阿佐ヶ谷にて全国バスマップサミットが開催された。今回も札幌から沖縄まで全国でバスマップを作成している市民団体やNPOが集まったほか、自治体やバス事業者も参加しての意見交換が繰り広げられた。



開始に先立ちポスターセッションでは各地の最新版バスマップの展示や取り組みを紹介。RACDAでは先

日まで開催されていた『瀬戸内国際芸術祭』のアクセスマップを紹介。初参加となる高松はカーフリーデーに開催したバス停探検隊の様子と調査結果、また新たに作成された高松市バスマップを展示した。

続いて行われたシンポジウムでは杉並区・西武バス・島根と仙台の市民団体より講演があり、杉並区からはコミュニティバス「すぎ丸」の紹介と誕生までの苦難の道を紹介。西武バスからはバス路線図作成の取り組みと鉄道駅間を結ぶ『たてバス』の紹介。島根「NPO法人プロジェクトゆうあい」からはこれまでに作成されたバスブックと各種取り組みの紹介、仙台「NPO法人まちづくり政策フォーラム」からは用途に応じたバスマップ作成の取り組みをそれぞれ紹介された。

このあとのフロアディスカッションでは参加者からの質問に対して講演されたパネルが回答に



で進行。なぜ事業者の作成するバス路線図には他社の路線が掲載されないのか、またどうすれば他社の路線を掲載することが出来るかを議論。バス停への

路線図掲載に関してはRACDAから城下バス停での事例を紹介。バスをもっと利用しやすくなるための意見交換を行った。

夜学・懇親会では普段関わることがない分野の方々と情報交換をしながら、交流を深めることができた。同時にクロストークとして、バスマップサミット顧問・鈴木文彦さんと北海道の沿岸バス、東京の立川バスによる「バス利用促進の取り組み ～取り組んでいる実務担当者によるクロストーク」も行われ、普段はバスに乗らないような人にバスを使ってもらうための試行錯誤を教えていただいた。

二日目は分科会で、

- 1 「バスマップ作成お悩み相談会」
- 2 「バスから始めるまちづくり」
- 3 「バスマップのWeb展開とGIS」
- 4 「使える、選ばれる公共交通実現のためにできること」



の4つに分かれてのワークショップを行った。1. ではこれからバスマップを作成したい方がどこから手を

付けていけば良いのかを話し合った。2. では市民団体が活動を行ううえで何を優先して行うべきかを“ダイヤモンドランキング”を用いて参加者と議論した。3. ではGIS (Geographic Information System: 地理情報システム) を用いたバスマップ作成の手法や国の取り組みを紹介。4. では利用者が何を求めているかをもとに今後どのような行動を行えばよいかを議論。ダイヤの定時性やのりばの快適など、これらは全て「品質管理だよね」と結論付けられた。

2日間にギュッと詰められた内容の濃いバスマップサミットとなり、どの団体とも今後の活力になっ



たに違いない。

(松田和也)